

ちっちゃなおとなの すこやかな成長を願って

幼児期家庭教育相談事業から

おかあさん、こんにちは。三歳になつたお宅のお子さんが、こう言っているはいませんか。

親の目からは、いつまでも「赤ちゃん」にみえても、実はもう赤ちゃんじゃないんです。「ちっちゃなおとな」なんです。三歳の子どもは、不完全ながら一応おとなの機能も、心と体の両面を示してくれます。だから自分の身のまわりのことは何でも自分でできるように「おきる」「おきる」「おきる」「おきる」「おきる」何でも自分でやらせましよう。

あまり手伝いすぎると、子どもをいつまでも「赤ちゃん」にしてしまいます

ママ！
もう赤ちゃんじゃ
ないよ

子どもがひとりでもやれたら、その場でほめてあげましょう。「あなた、えらいわね。」って。子どもは得意満面、こいううでしょう。「ママ！これひとりでもやれるよッ」。こうして自立性がどんどんついてきます。又、三つになつたら、少しづつ「反抗」が少なくならねばなりません。おかあさんのコトバを聞きわける力がついてこねばなりません。いつまでもダダをこねたり、やたらに反抗

するのは、発達が少しおくれしているか、ゆがんでいるかのどちらかでしょう。しかし、ぜんぜん反抗しない子どもも、問題ですよ。反抗はある意味では、自我が伸びつつある証拠ですので、大切にいたしましょう。

「○○ちゃんゴハンよ！こっちはらっしやい」「イヤッ」「まあーいいご返事ができるわね……」「……」（いつのまにか、子どもはおかあさんの所に来ています）「○○ちゃん、三つになつて本当にお利口さんになつたわね……もう赤ちゃんじゃないわ」。

(文責 熊本大学教育学部教授 甲斐直義)

▲家庭教育相談事業はがき通信文から

幼児期家庭教育相談事業

(一) 事業の背景

社会の構造が複雑になってきた今日、となく「憩いの場」としての家庭「人間形成の場」としての機能がそくなわれがちであります。

特に最近の社会構造の変化は価値観を混乱させ、ひいてはそれが親の子どもに対する教育の姿勢を混乱させ、教育的な機能が低下したり、無責任な放任や過保護もみられ、家庭教育上のさまざまな問題を生じています。

従来、県教育委員会は、家庭教育の充実振興を図るため、家庭教育に関する両親又はそれにかかわるひとびとの学習の場として、市町村教育委員会やPTA・婦人団体等により家庭教育学級が開設・運営されることを奨励援助してまいりました。

しかし、この学級における参加者のほとんどは、小中学生をもつ母親であり、しかも参加者約二万五千人は、県下成人人口の約二割にすぎない状態で、又現在では、このような集団で学習することはますます困難化するとともに、集団学習には、その成果もおのずから限界があり、個人学習の深まり

が困難でありました。このような現状と反省にたち、個人学習の深まりをねらって、昭和四十八年度以降、幼児期の家庭教育に焦点をしばって、本事業を実施することになりました。

(二) 事業の実施要項

(1) 趣旨

幼児期の教育は、将来の人となりのうえに極めて重要な役割を果たすものですが、現代の家庭においては、核家族化が顕著になり、両親・祖父母等や近隣社会からの援助も得がたいため、十分な家庭教育の機能が果たされていない現状にあります。

このようなことから、幼児をもつ親を対象として、家庭教育に関する具体的・個別的な問題解決に必要な実践的知識・技術を高めるため、従来の「集める社会教育」から「とどける社会教育」への発展想を変え、特に幼児期の家庭教育に焦点をしばり相談事業を実施するものであります。

(2) 対象者

3歳児の第一子をもつ親。(四十九年度約九千三百世帯)

(3) 相談・指導の領域

育児についての五領域です。
ア、健康安全 イ、栄養 ウ、幼児心理 エ、ことば オ、しつけ

(4) この事業にあたってくださる方
県内大学教授、助教授、テレビ放送新聞関係者、主婦など。

(5) 事業のすすめ方

ア はがき通信による相談・指導
イ 育児のうえで、親としてぜひ心がけねばならないことをまとめたはがき通信文を、年間九回(昭48年は八回)とどけます。

ウ 巡回による相談・指導
エ 幼児の家庭教育に関して、特に個別相談を希望する親のため、専門委員を現地へ派遣します。

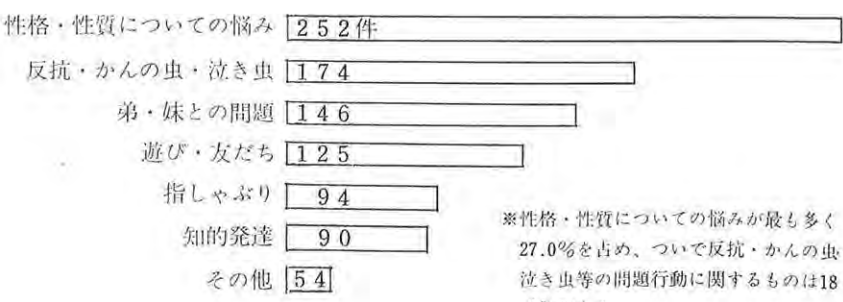
オ 巡回相談は、県下15会場(昭48年は11会場)実施します。

カ テレビ放送による相談・指導
キ 対象者から、はがきの返信でとどけられた質問事項のうち、頻度数の多いものを内容とする幼児期の家庭教育に関するテレビ番組を編成し、熊本放送(RKK)から放送します。

ク 対象者から、はがきの返信でとどけられた質問事項のうち、頻度数の多いものを内容とする幼児期の家庭教育に関するテレビ番組を編成し、熊本放送(RKK)から放送します。

ハガキ通信による
育児上の悩み
総計 2,669件
(100%)

資料① 幼児心理に関するもの 935件 (35%)



※性格・性質についての悩みが最も多く27.0%を占め、ついで反抗・かんの虫泣き虫等の問題行動に関するものは18.6%である。

家庭教育は、親が我が子に対して行う教育であり、いわば「家庭」という生活の場で行われる私的な教育であります。

それは主として、それぞれの家庭で、親が自分の子どもに対して行う教育でありますから、その目的や内容は多元的であり、個性的、創造的なものであるとともに教育責任は親であるといえます。つまるところ家庭教育は、「親の生き方、親のあり方」が最も大切なポイントであり「家庭教育をよりよいものにするための親の学習」が必要であると考えられます。そういう観点から、県では成人教育の一環として、幼児期家庭教育相談事業を、昭和48年度から実施しております。